



中国日本商会

今どきコラムー135

中国雑談

社会のホットピックス

6月12日午後、団地の外にパトカーが止まっているのを目にして少し意外に感じたが、あまり深くは考えなかった。3カ月間ほったらかしにしてミュージシャン風貌かのようになってしまった髪を切ってすっきりさせるために、私は団地の入口に向かってまっすぐ歩いたが、団地の入口で引き返すようにと言われた。なぜなら、私の住む団地で新型コロナウイルスの陽性患者とすれ違う人が出たようで、約1000人に上る住民に4日間にわたる封鎖が義務付けられたからだ。

突然、ネットサーフィンに多くの時間を充てられるようになった。様々なニュースや興味深いトピックスに目を通したかったが、全てのサイトを一通り閲覧して、私の記憶に残ったのは2つの社会種のニュースだけだった。

一つは北京の「天堂超市酒吧」というバーの閉鎖、もう一つは唐山で発生した殴打事件だ。

私が住む団地の住人も上述のバーに行った後、行動履歴から感染された可能性がきわめて高く、そのあおりを受けて団地の住民全員が外出禁止となった。

同バーの最大収容人数が5000人で、今回北京で封鎖解除が遅れたことは、同バーで発生した新型コロナウイルスが関係している。私が住む団地以外に、最終的にどれほどの北京市民が巻き添えとなったのかは想像に難くない。

最近、唐山市が何度も人気検索ワードとなっている。

最初にそうなったのは、新型コロナウイルスの予防抑制措置により農民が畑に出ることが禁止されたために、畑に出た百姓が村で自己批判しているところを収めた動画がネット上に拡散されたときだ。

5月は農民にとって最も忙しい時期であり、農民にとって田植えは急務だが、唐山の一部



の農村では新型コロナウイルスの予防抑制措置のために農民の野良仕事が禁止された。政策が、誰かが権威を振るうための口実と化す場合、民衆のその後の生計問題は当然のごとく見過ごされる。

農民に畑に出て仕事をさせないという事態が、唐山で発生しているにもかかわらず、すぐに事態を是正しないなら、より大きな社会危機の到来は避けられない。

6月10日、9人の男性が4人の女性を殴打している動画がネット上で拡散され、女性たちの受けた仕打ちはとても見るに忍びないものだったが、同時にネット上では現地警察の出動が遅いことやなかなか犯人たちが逮捕されないことを非難する声が上がった。

最初はウィーチャットのモーメンツに関連動画が投稿され、続いて個人メディアが取り上げ、そして唐山の現地メディアが後に続いた。11日、政府系メディアの『光明日報』が厳しく批判する報道を行い、続いて政府系メディアの『中国婦女報』がこの事件に言及し始め、そして国家通信社である新華社通信が現地警察によって一部の犯人が確保されたと報道した。12日に新華社は唐山市が今回の事件を処理する際の「雷霆风暴」（怒涛の動き）について報道した。その後、政府系メディアであれ、個人メディアであれ、中国メディアはそろってこの事件について触れるようになり、最終的に唐山は全中国から最も注目を浴びた。

実に、天堂超市酒吧の閉鎖や農民に対する畑仕事の禁止が社会に与えた悪影響は、殴打事件のそれと遜色ない。しかし、政府系メディアによる注目の度合いによって、最終的に事件が中国においてどれほど大きな印象を与えるかが決まる。

政府系メディアだからこそ社会全体における世論の動向に影響を与えられるのだ。

日本企業研究院 HP の関連記事

[中国に注意喚起するロシアの最近の局面 - 日本企業（中国）研究院 \(jpins.com.cn\)](http://jpins.com.cn)

[日本企業のプレゼンスはなぜ低下し、それが中国に与えるヒントとは？ - 日本企業（中国）研究院 \(jpins.com.cn\)](http://jpins.com.cn)